



学思

「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。」——『論語・為政篇』

Newsletter No.67

2020年4月～2021年6月

JSPS Beijing

目次

● 帰任の挨拶.....2～3

- ・ センター長 廣田薫
- ・ 副センター長 菅澤茉央

● 着任の挨拶.....3

- ・ 副センター長 成瀬雅也

● 活動報告.....4

- ・ JSPS 中国同窓会江蘇支部会
- ・ 広島大学北京研究センターとの共催イベント

● 事業案内.....5

- ・ 外国人研究者招へい事業
- ・ 二国間交流事業（共同研究・セミナー）

● センターの活動記録（2020年4月～2021年6月）.....6

編集・発行

日本学術振興会北京研究連絡センター

帰任の挨拶

センター長 廣田薫

(任期：2015年4月-2021年3月)

2015年4月1日に第4代センター長として着任して以来、海外センター長としての最長任期6年間に満了し、本年2021年3月31日に帰国いたしました。在任中の6年間には、いろいろな社会的変化がありました。いくつか、思いつくままに述べたいと思います。

着任当時は、お昼になると10元札や1元札などの紙幣を持って食堂に行きましたが、最近ではキャッシュレス化が進み、紙幣やコインなどの現金や財布が殆ど必要なくなりました。長年にわたる経済史においても、これは特筆すべき事でしょう。

また着任してまもなく、少し遠くまで出かけるのに自転車があると便利かなと物色を始めたのですが、そのうちに大学キャンパスに黄色い自転車が現れ始め、あれよあれよという間にシェア自転車の大洪水になりました。当初は、こんなことがビジネスになるのかと思っていましたが、ピークは過ぎたとは言え、現在でもシェア自転車は健在で定着しています。

着任時に（日本ではガラケーと呼んでいた）電話機能中心の携帯電話が、まだ

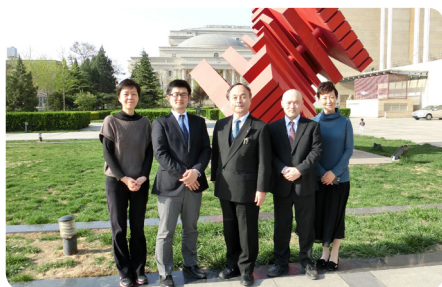
かなり使われていましたが、現在ではほぼ100%スマートホンに変わりました。そして老若男女ほぼ全員がそれを持たないと、生活しにくい状況にまで普及しました。

着任した頃は、p m 2.5 などによる大気汚染がひどく、ヨーロッパからやってきた友人が Beijing Milk などと茶化すというありさまでしたが、各方面の努力により、現在ではずいぶん改善されました。

そして、着任した頃には全く考えもしなかったことが後半になって起こりました。新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の蔓延です。100年に一度、前回のスペイン風邪に準ずるもので、JSPS 北京センターも様々な制約を受けています。昨年2020年2月1日には、センター長、副センター長、国際協力員2名の計4名が一時帰国して、センターオフィスも実質閉鎖状態になってしまいました。比較的短期間で回復できるものと思っておりましたが、なかなか思うようにはならず、私と菅澤（前）副センター長が、北京復帰の行動開始が出来たのは、一時帰国からちょうど丸1年

後の今年2021年2月1日でした。まずは、東京で所定のPCR検査を受けて陰性証明をもらい、2月3日に成田から広州に向かいました。広州で3週間のホテル隔離生活の後、2月25日ようやく北京入境、更にその後北京の自宅で健康観察期間と2回のPCR検査にパスして、自由に活動できるようになったのは、3月12日でした。実に、東京から北京の片道に40日もかかったことになります。北京センターは、JSPSの他の海外センターに比べて、東京に最も近く、COVID-19の前には、一時帰国したあと、東京の自宅を羽田に向かって朝7時半頃出発すると、順調なら午後1時半頃には北京センターオフィスに着けていたことを思えば、雲泥の差です。

現在の北京センターオフィスは、センター長と国際協力員が空席のままですが、成瀬（現）副センター長と現地職員の江さん余さんの3名で、しっかりと運営が行われているようです。なんとか、一日も早く平常状態に回復し、私も時には北京往来できるようになることを祈念して、帰任の挨拶といたします。



2015年4月



2016年4月



2017年4月



2018年4月



2019年4月



2020年3月

帰任の挨拶

2021年3月31日をもって副センター長を離任いたしました。私が着任した2019年4月1日は、新元号である『令和』が公式に発表された日でしたが、そのニュースを羽田空港内のお蕎麦屋さんの中で聞き、新元号の新たな響きと、大いなる不安ともに北京への第一歩を踏み出したことを今でも鮮明に覚えています。振り返ってみると2年間はあっという間でしたが、無事、次期副センター長の成瀬さんにバトンタッチすることができ、安心していただいております。

実は、着任まで中国とは特に縁があったわけではなかったのですが、任期を終える頃には、中国のことが大好きになっていました。JSPS 中国同窓会会長の孫先生をはじめ、シンポジウム等のイベントでお会いした中国人研究者の先生方はい

つも暖かく私に接してくださいました。また、日本大使館をはじめとする政府系機関で日中友好に日々尽力されている日本人職員や、長年にわたり中国に在住し、中国社会に溶け込んで生き生きと生活している日本人の友人達（中国人より中国のことに詳しくそうな人も？）がこれほど多くいるということも驚きで、大いに刺激を受けた2年間でした。私の中での中国の印象を一言でまとめると、中国は人口・国土をはじめ何事にもスケールが大きく（『全てにおいて日本の10倍』は廣田先生の口癖）、人々の性格もおおらかで優しい（電車で席を譲るのは日常茶飯事）ということに尽きるかと思います。短い間ではありましたが、北京センターでの2年間は、私の人生において大変貴重な経験となりました。

副センター長 菅澤茉央
(任期：2019年4月-2021年3月)



JSPS 中国同窓会総会
(南京農業大学湖熟菊花基地、2019.11.03)

最後に、この2年間、北京センター長の廣田先生をはじめ、私を支えてくださった全ての皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の終息後は、家族や友人を連れて北京を訪問し、北京の良さを一人でも多くの方に伝えたいと思っています（ちなみに私のお気に入りには天壇公園）。ありがとうございました。

着任の挨拶

4月1日付で副センター長を拝命しました成瀬雅也（なるせまさや）です。今回、コロナ禍の下でビザの発給が大幅に遅れ、入国に際しては青島で3週間の隔離生活を必要としたため、実際に北京に到着したのは6月に入ってからでした。まだ、右も左も分からない状態で、現在生活の立ち上げと業務の把握に四苦八苦してい



副センター長 成瀬雅也

るところです。

これまで、文部科学省をはじめとした政府系機関や大学等で、主として国際交流に関わる業務に従事してきました。中国との関わりはあまりなく、今回の赴任が決定してから慌てて中国語の勉強を始めたくらいですが、九州の2つの大学で国際担当課長を務めていた時に、留学生の半数近くを占める中国出身の留学生が、異国である日本でそれぞれの目標を持って奮闘する姿を通して、日々成長していく中国という国のエネルギーを感じていました。当時、海外同窓会開催のため訪れた北京で立ち寄った JSPS 北京センターに縁あって勤務することになり、大きな喜びを感じています。

副センター長 成瀬雅也

当面、北京センターは日本人職員1名、現地職員2名の最小限の体制になりますが、これまで北京センターが培ってきた JSPS 中国同窓会、現地大学・対応機関や日本の現地機関などとの関係を絶やすことなく、昨年以来コロナにより中断を余儀なくされている業務やイベントの再開に努めるとともに、日中の研究者支援や国際交流といったセンター本来の使命を着実に果たしていきたいと思ひます。

国内外の情勢が落ち着いた頃には、中国思想と世界遺産、『史記』や『三国志』で親しんだ中国史の世界を感じられる旅に出られる日が来ることを信じて、頑張っていきたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

JSPS 中国同窓会江蘇支部会を開催

2020年11月21日（土）、南京大学外国語学院主催、JSPS 中国同窓会江蘇支部等関連機関共催の『日本文学における都市描写』学術シンポジウムが南京大学国際会議センターにおいて成功裏に開催されました。

南京大学外国語学院の何寧院長は開会の挨拶で、ユネスコが2019年10月31日の「世界都市デー」に、66の都市がユネスコの『創造都市ネットワーク』に加入すると正式発表した旨を紹介しました。この際、南京は『文学の都』として加入し、中国で初めてこの称号を得た都市となりました。今回のシンポジウムは、南京の『文学の都』としての学術的地位と社会的価値をさらに向上させることを目的としています。開会式後のハイエンドフォーラムでは、復旦大学の李征教授ら4人の大学研究者が基調講演を行いました。約60名がこの会議に参加し、会場は終始満席で、文化的な雰囲気の中で激しい学術討論が行われました。また、JSPS 北京研



究連絡センターの廣田薫センター長は、日本からビデオメッセージによる挨拶を行いました。JSPSの事業説明会は、午後の休憩時間を利用し和やかな雰囲気の中で行われました。参加者はJSPSのプロジェクトに高い関心を示し、このようなプロジェクトを広く周知積極的に利用することで、日中学術交流を推進するよう努力すると表明しました。

疫病防止期間中に開催されたこの会議について、江蘇支部会員の劉東波研究員は、会議運営組織を率い、安全・安心の原則に基づく入念な準備と会議関連業務の遂行にご尽力下さいました。この場を借りてお礼申し上げます。

JSPS 中国同窓会は、今後も引き続き学術シンポジウムや事業説明会等の各種活動を積極的に行い、日中研究者の学術プラットフォームの構築および共同研究の推進に貢献していきます。



広島大学北京研究センターとの共催イベント

2021年3月20日（土）、広島大学北京研究センターと首都師範大学がJSPS 北京研究連絡センター、北京大学出版社および陽光学院と共同で、『日本概況』第三版の編集・出版に関する会議をオンラインで開催しました。会場は北京市内の「金竜潭ホテル」で、会場出席者は約50名です。日本側は広島大学とオンラインで繋がりました。

『日本概況』は、北京大学出版社から出版されている日本語科必修科目のテキストで、これまで第一、二版、合わせて5万部が発行され、好評を博してきました。内容は、広島大学の佐藤利行理事（希平会会長）と首都師範大学の李均洋教授によって監修・決定されます。

会議中、中国教育部日本語教学指導委員会主任・修剛教授が、『日本概況』の改訂に際して、理性的、冷静、客観的、全体的に中日関係を認識し、中日友好交流をさらに促進するという期待を寄せました。在中国日本大使館の菅原孝介一等書記官も、本テキストの出版による更なる日中友好促

進を期待する旨、発言しました。北京大学出版社・杜若明主任から『日本概況』のデジタル化構想が発表されました。中国国家友誼賞受賞者である佐藤教授が、日中両国の更なる友好に自信を見せました。最後に李教授が、『日本概況』をより良いテキストにするため、編集委員一同、全力を尽くす旨、抱負を述べました。

同日には、広島大学北京研究センター主催「第15回日本語作文スピーチコンテスト」も開催されました。同コンテストは、広島大学北京研究センターが、日中交流事業の一環として、2006年から毎年、首都師範大学において開催しているイベントです。今回は、コロナ禍の下、参加者をオンラインで繋ぎ開催されました。当日は、中国各地の大学で日本語を学んでいる学生から応募のあった者のうち、作文審査による予選を経て、優秀賞に選出された5名が日本語スピーチを披露しました。JSPS 北京研究連絡センターは、本イベントを後援しました。

2022 年度外国人研究者招へい事業募集案内

● 外国人特別研究員事業	● 外国人招へい研究者事業
対象分野： 人文学、社会科学及び自然科学の全分野	対象分野： 人文学、社会科学及び自然科学の全分野
支給経費： ・ 渡航費：往復国際航空券（現物支給） ・ 滞在費：月額 362,000 円（約 21,300 円） ・ 渡日一時金：定額 200,000 円（約 11,800 円） ・ 海外旅行保険	支給経費： ・ 渡航費：往復国際航空券（現物支給） ・ 短期滞在費：日額 18,000 円（約 1,060 円） ・ 長期滞在費：月額 387,600 円（約 22,800 円） ・ 海外旅行保険
※ 2020 年度採用状況： （第 1 回）申請数 1069 件、採用数 115 件、採用率 10.8% （第 2 回）申請数 1218 件、採用数 115 件、採用率 9.4% ・ 中国籍研究者採用実績：70 名 （中国科学技術部の推薦者数を含む）	※ 2020 年度採用状況： 短期：（第 1 回）申請数 248 件、採用数 90 件、採用率 36.3% （第 2 回）申請数 166 件、採用数 70 件、採用率 42.2% 長期：申請数 187 件、採用数 61 件、採用率 32.6% ・ 中国籍研究者採用実績：15 名（長期 2 名、短期 13 名）
参照リンク： 日本語： https://www.jsps.go.jp/j-ippan/boshu.html 英語： https://www.jsps.go.jp/english/e-ippan/applguidelines.html 中国語： https://www.jsps.org.cn/jspsbj/site/gjilxmch/wjtbyjych.htm	参照リンク： 日本語： https://www.jsps.go.jp/j-ippan/boshu.html 英語： https://www.jsps.go.jp/english/e-ippan/applguidelines.html 中国語： https://www.jsps.org.cn/jspsbj/site/gjilxmch/wjtbyjych.htm

2022 年度二国間交流事業（共同研究・セミナー）募集案内

対応機関	中国科学院 (CAS)		中国社会科学院 (CASS)	国家自然科学基金委员会 (NSFC)	
対象分野	Advanced Materials		人文学、社会科学	自然科学	
実施形態	共同研究	セミナー	共同研究	共同研究	セミナー
採用予定件数	3	2	1	15	4
支援期間	3 年間	1 週間以内	1 年～2 年 9 ヶ月	2 年 9 ヶ月	1 週間以内
連絡先	中国科学院 国際合作局亜非処 Tel: 010-6859-7480 Email: htchen@cashq.ac.cn		中国社会科学院 国際合作局亜非処 Tel: 010-8519-5139 Email: xuxt@cass.org.cn	国家自然科学基金委员会 国際合作局 Tel: 010-6232-7780 E-mail: tangks@nsfc.gov.cn	
採用状況 (2020 年度)	共同研究： 申請数 9 件、採用数 3 件 セミナー： 申請数 1 項、採用数 1 件		共同研究： 申請数 4 件、採用数 1 件 セミナー： 申請数 1 件、採用数 1 件	共同研究： 申請数 118 件、採用数 8 件 セミナー： 申請数 17 件、採用数 3 件	

※中国の研究者は対応機関に申請書を提出する必要があり、上記の三つの対応機関の担当部局に必ず連絡してください。

日本語：https://www.jsps.go.jp/j-bilat/semina/shinsei_bosyu.html

英語：<https://www.jsps.go.jp/english/e-bilat/call.html>

センターの活動記録

(2020年4月～2021年6月)

学思 No.67 | 2020.4～2021.6

2020年

4月

23日 広報文化十一者会出席 (オンライン)

5月

28日 広報文化十一者会出席 (オンライン)

6月

30日 広報文化十一者会出席 (オンライン)

7月

31日 広報文化十一者会出席 (オンライン)

8月

31日 広報文化十一者会出席 (オンライン)

10月

27日 広報文化十一者会出席 (オンライン)

11月

21日-22日 JSPS 中国同窓会江蘇支部会 (南京)

30日 広報文化十一者会出席 (オンライン)

2021年

2月

23日 広報文化十一者会出席 (オンライン)

3月

12日 日本大使表敬訪問 (北京)

16日 科学技術懇談会出席

20日 広島大学北京研究センター『『日本概況』改訂会議』
「第15回日本語作文スピーチコンテスト」

24日 広報文化十一者会出席

5月

25日 広報文化十一者会出席 (オンライン)

6月

21日 広報文化十一者会出席



日壇公園の休日



撮影日：6月20日(日)午前中
撮影者：成瀬雅也

日本学術振興会 北京研究連絡センター

JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE BEIJING REPRESENTATIVE OFFICE

北京市海淀区西三環北路89号 中国外文大厦A座404室

郵便番号:100089

Tel: +86-10-8882-4331

Fax: +86-10-8882-4332

E-mail: beijing@jps.org.cn

URL: www.jps.org.cn

副センター長 成瀬雅也

現地職員 江岸、余彬



WeChat

